

資 料 編

古墳保存整備事例

1. 墳丘形態の整備手法..... 資1
2. 外部施設の整備手法..... 資2～3
3. 内部主体の整備手法..... 資4～5

墳丘形態の整備手法

表示：墳丘が著しく削平され、往時の姿が復元できない場合などでは、その規模を平面的(若干盛り上げることもある)に表示する。



史跡江田船山古墳 附 塚坊主古墳(熊本県)
前方部削平のため盛土で平面的規模を表示



史跡蛭子山古墳(京都府)
墳丘裾分の削平箇所を盛土にて自然な形で修復し墳丘規模を表示

修復：削平された部分などに盛土を施して修復する。



史跡雨の宮古墳群 2号墳(石川県)
墳丘流出部を盛土によって修復



史跡市尾墓山古墳(奈良県)
墳丘流出部に植生土のう積みを行って修復

復元：発掘調査等の結果を基に築造当初の規模、形態を立体的に復元する。



史跡作山古墳 第二・三号墳(京都府)
墳丘を復元。葺石は施されていないため、法面保護のために芝を張る



史跡三ツ城古墳(広島県)
墳丘及び葺石を復元。墳丘裾部は葺石が検出されなかったことから法面保護のために芝を張る

外部施設の整備手法

復元：遺構面を保護した上に新たな石を設置して葺石を復元する。また、全面的に葺石を復元するものと、部分的に復元する手法がある。



古墳全景(参照：一般社団法人山口県観光連)



古墳全景
(参照：横芝光町 HP)



史跡茶臼山古墳(山口県)
墳丘及び葺石を全面で復元



史跡森將軍塚古墳(長野県)
墳丘及び葺石を全面で復元



古墳全景(参照：石川県埋蔵文化財センター)



史跡能美古墳群 秋常山古墳(石川県)
墳丘及び葺石の一部を復元



古墳全景

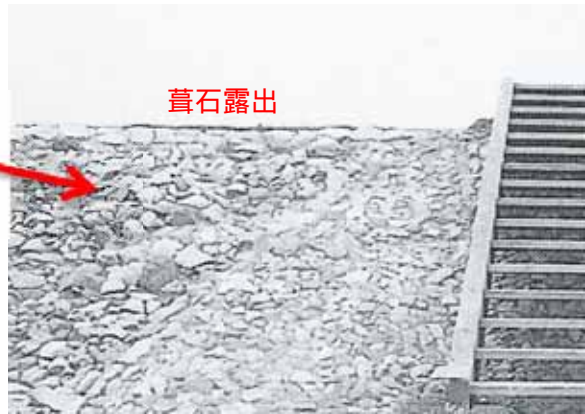


史跡昼飯大塚古墳(岐阜県)
墳丘及び葺石の一部を復元

露出：葺石の残存状況が良好である場合などでは、葺石をそのまま露出させる手法がある。葺石が抜け落ちている場合には補足石材を用いて遺構面で葺石を復元する場合もある。



古墳全景



史跡雨の宮古墳群 1号墳(石川県)

遺構面を露出し、葺石崩落部のみ盛土した上で欠損している葺石は補足石によって復元



古墳全景



史跡茶すり山古墳(兵庫県)

葺石の一部を露出展示

資料-3 外部施設の整備手法(2)

内部主体の整備手法

<p>表示：遺構に盛土を施して保存し、舗装や植栽、遺構の写真を焼き付けた陶板等を設置して範囲を平面的に表示する。</p>	
	
<p>史跡三ツ城古墳 3号墳(広島県) 写真を陶板に焼き付け墓壙を平面的に表示</p>	<p>史跡作山古墳 第一号墳(京都府) 周辺埋葬施設 レンガの縁石と真砂土で墓壙の規模を表示</p>
	
<p>史跡茶すり山古墳(兵庫県) 写真を焼き付けた陶板を埋めこみ平面的に表示</p>	<p>史跡雨の宮古墳群(石川県) 縁石と植栽にて墓壙の規模を表示</p>
<p>復元：調査の成果をもとに、類似の材料を用いて築造当初の姿に復元する。</p>	
 <p>石室拡大</p>	
<p>神原神社古墳(島根県) 崩れていた竪穴式石槨を復元し、隙間から内部を見ることが出来る。全体に覆屋がかかっている</p>	<p>史跡有岡古墳群(香川県) 石材を補足して横穴式石室の下半分を復元</p>

資料-4 内部主体の整備手法(1)

露出：石室や槨、棺等の残存状態が良い場合などでは、遺構をそのままの姿で露出展示する。
遺構保護のための覆屋をかけることが多い。



高井田山古墳(大阪府)
保護覆屋を設け石室を露出展示



史跡作山古墳 第一号墳(京都府)
保護覆屋を設け石棺を露出展示

遺構模型：類似石材、FRP 等を使用して遺構の模型を作り、保護盛土を施した遺構の直上で展示する。



史跡雨の宮古墳群 17号墳(石川県)
竪穴式石室の蓋石部分の模型を設置



史跡茶すり山古墳(兵庫県)
保護覆屋を設け副葬品を含めた主体部の模型を設置

資料-5 内部主体の整備手法(2)